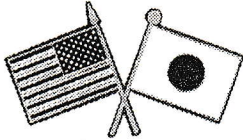


21 NOV 2005



第27号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

正会員の横田基地研修

—— 大串団長以下15名、参加 ——

平成17年10月6日、正会員の横田基地の研修が実施された。この研修は平成12年度に始まり、概ね2～3年に1回の割合で実施してきた。平成15年度に続く3回目の今年度の参加者は大串康夫団長以下、会員9名・担当常務理事等6名の合計15名であった。

一行はJR福生駅に集合し、米軍出迎いのバスに乗りし福生ゲート経由で第5空軍司令部庁舎に到着した。庁舎前では第5空軍3部長マーク・モウ大佐 (Col. Mark Mouw) の出迎えを受けた。記念撮影

の後、会議室で関係幕僚が陪席する中、「第5空軍アップデート・ブリーフィング」を受けた。計画段階では第5空軍司令官・副司令官が本研修に出席される予定であったが、急遽開催された将官会同で不在のためモウ大佐が代行された。

まず、正会員の基地研修を歓迎する旨の言葉があり、日米双方の参加者紹介、続いて「第5空軍の現状」の説明あった。その中で、有事の作戦戦闘指導を行う「Kenny Hq. (仮称)」がヒッカム空軍基地



Memorial Picture with Col. Mouw

内に設置されたとの説明があった。少将又は准将を長とする航空作戦調整エレメントが編成され、必要な事態が生起すると必要な場所に派遣されるそうだ。新組織は理解しにくい面もあるが、「有事戦闘指導部」的 성격の司令部と、その指揮下で各戦闘正面に派遣される航空作戦調整エレメントを編成し、有事の航空作戦を効率的に行うことを目的としているようだ。仮称の「Kenny」は太平洋戦争中、米軍が反攻を開始した時期に第5空軍司令官として勇名を馳せたジョージ・G・ケニー将軍に由来する。

概況説明に続き11時からは374航空団副司令クルーレン大佐 (Col. Doug Kreulen) 自らの説明による基地内バス・ツアーが催行された。飛行場地区を含む基地内主要施設を回り説明を受けた。横田基地は開設後50年を経過し施設の老朽化が進み、現在136件に及ぶ建物の改修計画を推進中であり、また現有C-130型機に適合する新格納庫を建設中であった。バスツアー中、横田基地の空輸物資のハブ機能、緊急派遣物資・車両の集積・保管等、基地全般の活動状況について説明がなされた。空自C-130のイラク派遣前の「SAM対処」のための着陸訓練を横田で実施したとの説明が大変興味深かった。

昼食会は将校クラブで開かれマウ大佐以下の主要幹部を交えて和やかな懇談の場となった。午後はA

F Nの研修から始った。国道16号線を横断し基地の西側に所在する西部住宅地区内にある局舎に入り、最新の器材に更新され全世界規模で接続されたネットワークと番組・ニュースの製作・編集・放映（放送）等の現場を見て回った。

次に、最近竣工した「Air Force Inn」を研修した。ベッドルーム、ダイニングルーム、バストイレ、台所を完備し従前のVOQと比べ隔世の感があった。これにより宿泊費はシングル1泊43\$となり随分高くなったようだ。

最後の研修箇所は730AMS（航空機動飛行隊）。C-17、C-5、C-141に対する支援、所要部品のベンチストック、搬入・搬出される物資の区分け・荷造り・搭載等を12時間交代のシフト勤務で実施している実態に触れることが出来た。日本国内の配送で航空機によるよりも陸送したほうが効率的な場合には日本の民間陸送業者との契約によるトラック便を活用している点が目新しかった。予定のC-17型機の研修は当日の飛来予定が変更となり中止された。

研修を終了し、支援を頂いたモウ大佐の見送りを受け横田基地を後にした。今回の研修も米軍側の熱意が随所に感じられ、中身の濃い内容であり、研修成果は大なるものがあった。（村田常務理事記）



5AF Update Briefing

第35戦闘航空団司令兼三沢基地司令

サルバトーレ A.アンジェレラ大佐着任



Col. Angelella

8月26日、米空軍第35戦闘航空団司令兼三沢基地司令がウィリアム J.ルー准将からサルバトーレ A.アンジェレラ大佐に交代した。当協会から小沢満昭・三沢支部長が指揮権交代式に出席した。この指揮権交代式

は第5空軍司令官ブルース A.ライト中将執行のもと、米空軍三沢基地の格納庫内で行われた。制服着用部隊の両脇に来賓席が用意され、三沢基地に所

在する航空自衛隊、周辺自治体、協力団体等からの招待者、米軍人及びその家族が参列した。儀式は二人の男性兵士のアカベラによる日米両国の国歌斉唱で始まり、離任するルー准将に勲章が授与され、同准将から第5空軍司令官に返された第35戦闘航空団の指揮官旗が新指揮官のアンジェレラ大佐に手渡され厳粛な指揮権交代の儀式は終了となった。指揮権交代式の前のプレ・レセプションの席上で離任するルー准将に対しJAAGAから記念の楯を手渡した。

(小沢三沢支部長記)

新生つばさ会/JAAGA訪米団に参加して

—— 名誉会員制度の有難さを痛感 ——

常務理事 越智通隆

本年度14回目となる訪米団は、平岡元空幕長を団長に山口JAAGA副会長を副団長に、それに私の3名という少人数の編成で、9月10日から19日までの10日間の日程でワシントンとハワイの2ヶ所を訪問してきました。

本事業にJAAGAが併記されるようになってから本年度3年目となります。訪問する度に同じく3年目となる5空軍司令官経験者の方々にJAAGAの名誉会員になっていただいている制度の恩恵を痛感しております。米軍のトップである統参議長は世界を相手にしており各国の現役の統参議長でもなかなかお会いする時間をとることは簡単ではないと聞いております。本訪問団は毎回表敬の栄に浴してお

り本当に有難い事と感謝しております。来年はJAAGA創立10周年にあたる事から村木会長からの来年7月11日を予定している記念日での講演のお願いの親書を山口副会長からお渡しいたしました。今後関係機関との調整が必要と考えますがまずは良いスタートがきれたと思います。国防総省ではローレス次官補とアポイントメントがとれたとの大使館からの連絡でしたが中国の北京で急遽6者協議が行われるとの事で残念ながら今回は会うことができませんでした。しかし日本部長のヒル氏と会うことができ小一時間意見交換することができました。そのおりに米側のホンネともいべき受けとりによっては日本に対する厳しい見解を含んだ議論ができた事



Gen. Myers's office

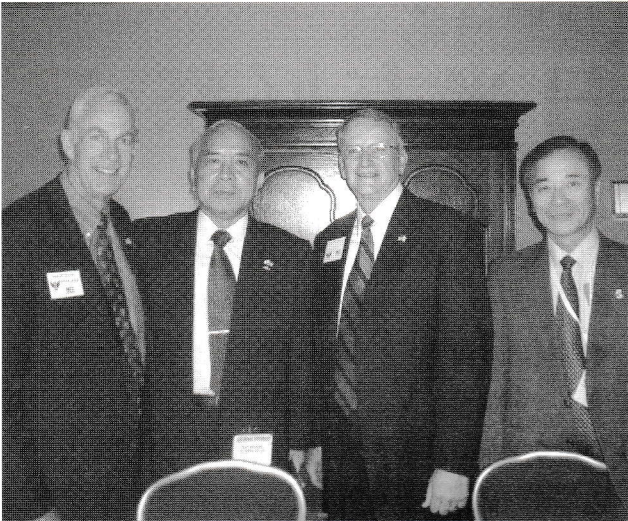
は大変有意義でした。空軍省では国際局長のレムキン氏とあいました。F-22の他国へのリリーサビリティについての言及があり2年後に議会で見直しがあるだろうとのこと。その際の最大の論点は米国との同盟関係の距離で決まるのではないかとのコメントでした。計画局長のウッド中將にもお会いしましたが昨年ネリスでお会いして以来のことで懐かしさもひとしおでした。

帰路ハワイにある米太平洋軍司令部と太平洋空軍司令部を訪問しました。太平洋空軍司令官のヘスター大將は不在でしたがワシントンでのAFA総会でご夫妻でお会いできました。ハワイではデブチュラ副司令官以下の大歓迎をうけました。太平洋空軍のブリーフィングをうけましたが最新鋭のF/A-22やC-17の配備、ガム島におけるグローバルホークの配備の計画等この地域における米軍の並々ならぬ決意の程を窺い知ることができました。極めつけはこ

れらを有効に戦力発揮できるよう衛星を用いたネットワークで構成された24時間態勢であらゆる事態に有効に対応できる新司令部の誕生であります。これは「戦闘司令部」とよばれ第二次世界大戦中に活躍した将軍の名をとって「ケニー司令部」と命名されています。

ハワイでは現役時代には我々一行を部隊あげて毎年大歓迎してくれていましたエバハート退役大將とお会いする機会があり旧交を存分に暖めることができた事は一同にとって誠に有難く嬉しいことでした。

我々の訪問にあたって毎年絶大なる支援をして頂いている在米大使館防衛駐在官の平塚1佐や佐藤2佐またハワイ連絡官の三輪1佐また米側の受け入れ担当官である空軍省国際局のアンダーソン少佐、統参本部のウェア中佐等等関係各位には大変お世話になっている事改めて厚く紙面をお借りしてお礼申し上げます。



Chairman & Executive Director of AFA



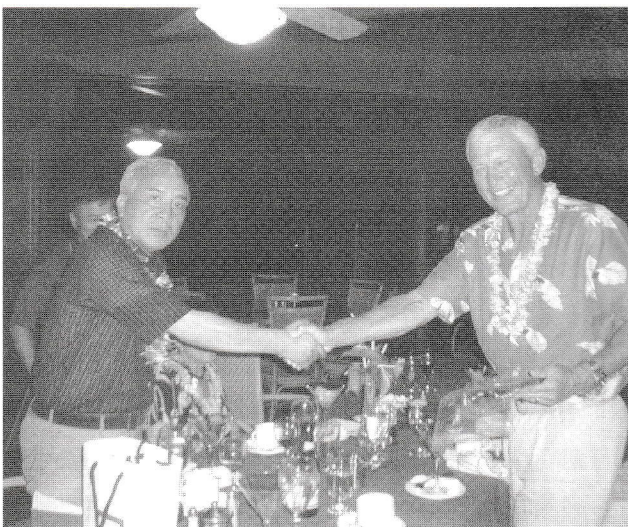
Gen. & Mrs. Hester



Lt. Gen. Wood



Mr. Lemkin



Gen. Eberhart (Ret.)

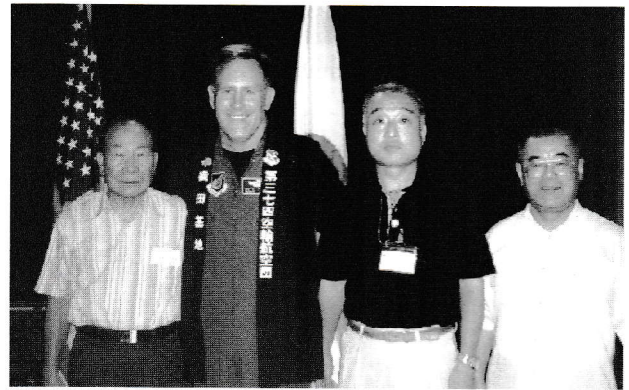


PACAF Vice Commander Lt. Gen. Deptula

'05 横田基地日米友好祭

本年度も横田基地日米友好祭が8月20日（土）21日（日）の両日に亘り夜9時まで市民に開放され、様々な趣向を凝らした行事で終日賑わった。基地司令グッドウィン大佐の招待でJ A A G Aから渉外担当の坂東常務理事と広報担当の越智常務理事が参加した。初日の午後1時半から下士官クラブにおいて基地司令主催のパーティが開かれ久し振りに集まった懐かしい面々がそこかしこに集まり楽しい話題で大いに盛り上がった。空自府中基地司令の加藤1佐や福生横田友好クラブ会員でJ A A G A会員でもある石川氏や埼玉県隊友会副会長の山岡氏も参加しておられ早速日米両国旗の前で記念撮影に応じて頂いた。ひとしきり歓談の後、飛行場地区に足を運び展示機を見て回った。

韓国からU-2偵察機やA-10攻撃機、超大型輸送機C-5や空中給油機、日米のAWACS機等大変興味深い飛行機がエプロンに所狭しと並んでいた。戦後60周年を記念して実施された今年度の日米友好祭も多くの人出で賑わっていた。（越智常務理事記）



JAAGA members & Col. Kato with Col. Goodwin

'05シビック・リーダー・ツアーに参加して

シビック・リーダー・ツアーとは基地に関係する各種団体の主要な職に就く人達に対し、現地研修を通じて米空軍の任務の理解促進と更なる友好親善を図るため、2年に一度実施されるものです。

今回は10月5日～7日に横田基地司令であるグッドウィン第374空輸航空団司令官が横田近隣の商会会議所、ライオンズ・クラブ、友好協会、東京都の基地共用化推進部長等の25名を招待し自らC-130の操縦桿を握り韓国のオーサン基地と嘉手納基地を案内して頂いた。

2時間半のフライトで韓国のオーサン基地に到着。オーサン基地にはF-16、A-10が約50機配備され、殆どの航空機が掩体に格納されている。敷地は横田基地より狭く横田の約90%、基地人口は約1万1千人で95%は独身若しくは単身赴任者であり、更には24時から朝の5時までの外出禁止令（curfew）施

行及び他の隷下基地であるクンサン空軍基地は全員が独身又は単身者だと言う説明に、これが北朝鮮と対峙している第7空軍の現実であり、第5空軍隷下の基地とは大きく違うということを実感した。

研修はF-16、A-10のほか、U-2を操縦席以外は何の制限も無しに見ることができた。その他、爆発処理部隊（EOD）のロボット操作と実爆訓練、A-10フライト・シミュレータの体験、この間の写真撮影がU-2を含む全てのところで許可され、そのサービス振りに驚いた。太平洋空軍隷下で最も素晴らしいと自慢する隊員食堂、13人の専門トレーナーを擁し一日の平均利用者数が1200人を数えるフィットネス・ジム及び体育館は独身又は単身赴任者の勤務期間が1年であり、殆どが基地内で過ごすことから必然的に立派になったものと思う。嘉手納基地では第18戦闘航空団のコマンド・ブリーフィングの後、

交通事故を起こした車から運転者を救出する消防隊のデモ、HH-60救難ヘリ、KC-135空中給油機、飛行生理訓練所(チャンバ)を視察した。基地内は緑多く整然とし、ゴルフ場ではのんびりとプレーしている姿が見られた。司令部近辺でも徒歩で移動している者は皆無である。オーサン基地での何とも言えない肌にした緊張感は急ぎ足でドミトリから出勤する隊員の姿、プレーする姿を見なかったゴルフ場、掩体に格納した戦闘機などから威圧的に感じたものです。

この研修では両基地共、心からの歓迎の意を表すとともに如何に地元に気遣いしているかを説明して

研修を支援してくれた。嘉手納ではFENのテレビ・インタビューを受け、「アメリカ人、日本人、韓国人それぞれの歴史、文化、伝統が異なり、それゆえにもの考え方が異なる。だから、この種のツアーで現場を研修し、考え方を話して、相互に理解することが大事である。」と述べた。研修を通じて東アジアの平和と安定に在日米軍、在韓米軍が如何に寄与しているかを目の当たりにし、その存在の重要性と米空軍の努力を再認識した。研修間、グッドウイン司令官が自ら説明し、自ら操縦桿を握り、自らがホスト役に徹していた姿に参加者一同感動を覚えた。

(榎常務理事記)



Civic Leaders Tour

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

平成17年度日米下士官交換プログラム支援

8月24日、J A A G Aの日米隊員交換活動支援事業の一環として、平成17年度日米下士官交換プログラムに対する支援金の贈呈が行われた。当日、山口J A A G A副会長が岩崎担当理事を伴って米軍横田基地にライト第5空軍司令官を訪問し、司令官立会いのもとで、9月1日付けでモーア曹長から司令官付先任下士官を引き継いだ、ロイ曹長に対し支援金を贈呈した。ロイ曹長からは、今回の支援金に対する謝辞とともに、この下士官交換プログラムは日米隊員の友好と相互理解増進のために極めて意義深いプログラムであり、J A A G Aからの支援が各基地における日本側隊員受け入れに大変役立っている、

との前任者からの申し継ぎが伝えられた。また、ライト司令官からも、在日米空軍に対するJ A A G Aからの支援に、改めて感謝の言葉があった。日米下士官交換プログラムは、今年も日米夫々3基地において行われる。米側は8月末から三沢基地において空自空曹を受け入れるのを皮切りに、横田、嘉手納基地において、また、日本側は10月半ばからの新田原基地における米空軍下士官の受け入れを始めとして百里、美保基地において各々実施される予定である。航空自衛隊の受け入れ基地に対しても同様の支援が行われることになっている。

(岩崎常務理事記)

日米下士官交換プログラム—空自側に対しても支援開始

米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援の一環として従来から行われて来た、「日米下士官交換プログラム支援」は、本年度からは米空軍隊員を受け入れる空自側への支援も行うことになった。

同プログラムで空自隊員を受け入れる米空軍側への支援金贈呈は既報の通り8月に横田基地で行われているが、9月21日、山口J A A G A副会長は岩崎担当理事を伴い市ヶ谷を訪れて、空幕で日米下士

官・空曹交換プログラムを主管している人事教育部長岩崎将補と教育課で業務を担当している倉形1曹に支援活動の趣旨を説明し、支援金を贈呈した。今年度空自側では、新田原、百里、美保各基地において各々嘉手納、三沢、横田各基地からの米空軍下士官を受け入れ、様々な交流活動が行われる。

(岩崎常務理事記)



Lt.Gen.Yamaguchi(Ret.)hands NCO support fund to Maj.Gen.Iwasaki

'05コープ・ノース(グアム)訓練参加部隊から礼状

北部航空方面隊司令官新野空将に託されたコープノース(グアム)訓練参加部隊への激励金に対して訓練指揮官の3空団飛行群司令上田1佐から下記の礼状が協会宛に届いた。

盛夏の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

米国グアム島におけるコープ・ノース訓練を終了し、全隊員が無事帰隊したことを報告いたします。

訓練においては空自初となる地上目標への実爆訓練を実施し、6名のF-4操縦者に実爆を経験させることができました。また、米空軍F-15とのDACT訓練において日頃の訓練成果を十分に発揮するとともに、日米双方の要撃管制を空自E-2Cが担当し、日米の戦闘機運用思想を確認することができたことは、大きな成果となりました。

訓練のみならず、今回の訓練に参加した日米全隊員400人以上が一堂に会してパーティーを行うこと

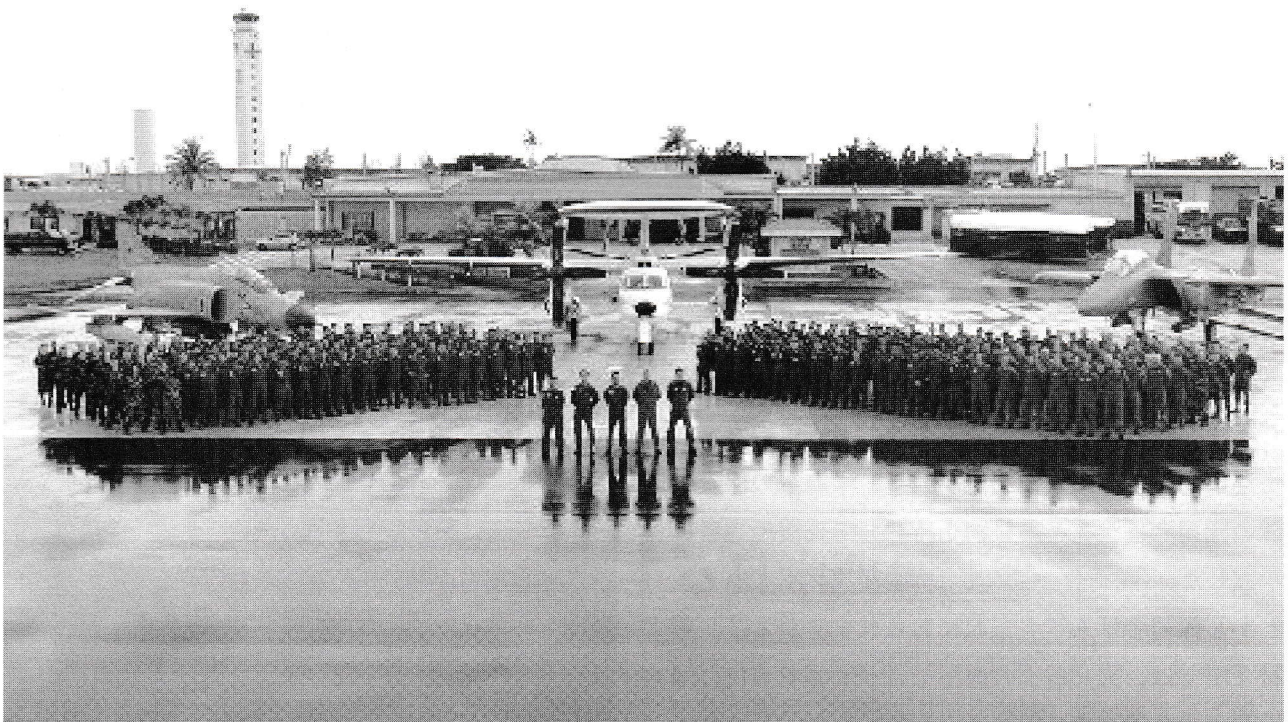
ができたのは、貴協会よりいただいたご支援のおかげであり、日米エア・フォースの友好関係をさらに推進することができたものと信じます。

訓練部隊の解組に当たり、今回の訓練成果を今後の練成訓練に活かして部隊のさらなる精強化を図るとともに、三沢基地の特性を活かして日米の信頼関係を一層強固にしていきたいと決意するものです。

J A A G Aの一層の発展と、会員の諸先輩方のご健勝を祈念し、略儀ながら訓練部隊の帰国報告とさせていただきます。

コープ・ノース05訓練指揮官

1等空佐 上田 知 元



Cope North Guam '05

青森ねぶた祭参加支援

- 1 日 時：平成17年 8月 6日（土）
14：30～23：45
- 2 参加者：39名（引率者：山本事務局長夫妻）
 - (1) 米空軍関係：大人20名（将校3名、下士官7名とその家族）
 - (2) 米海軍関係：大人15名、子供3名（将校4名、下士官8名とその家族）
 - (3) 米海兵隊関係：大人1名（下士官1名）

3 概要

三沢支部は、三沢国際クラブの紹介を頂き、青森市役所及び青森国際ボランティア協会の支援を受け、今年で2回目の米軍三沢基地所属の軍人及びその家族に対し「青森ねぶた」祭りへの招待行事を実施した。

当初、青森の支援団体から30名分の衣装の無料支援が可能と云われたので、米空軍及び米海軍の各先任下士官を各々の窓口として「ねぶた祭り」参加希望者30名の募集を行った。当日14時30分、集合場所にリスト外の米軍人9名が訪れ「ねぶた祭り」へ参加したい旨を申し出た。各先任下士官と協議し、「衣装の提供は無理かもしれないが祭りの見学はできる。またバスは定員44名で乗車可能」とのことで彼等を合わせて39名で出発した。青森への移動中、祭り関係者に電話連絡し衣装の借用調整を行った。

待機場所のホテルに到着後、他団体からの9名分の衣装が届いており、そこで祭り衣装に着替えた。今年で二回目の支援を受けるのでお礼の気持ちとして私はアメリカのカップ・ケーキ、米海軍の保安中隊の隊司令はケーキと果物を持参して支援担当者に手渡した。（隊司令と二人で「これで来年もOK?」、しかし隊司令は来年も三沢におられますかね?）着替え場では、男女各々の部屋で各々6名の着付け補助者が手助けしてスムーズに着替えた。着替えた人達は早速、相互に記念撮影をしていた。全員が着替

えた後、「ねぶた祭り」に対する諸注意事項を拙い英語で説明した後、担当者の引率で祭り会場へ移動した。

彼達は、「ねぶた」飾りの大きさに驚くと共に、笛や大太鼓のお囃子で一気には頭の中は祭りモードとなり、地元人と一体となって祭りを大いに楽しんだ。「はねと」の踊り方は地元の人が見本を見せると、すぐに「はねと」の輪の中に入っていった。祭りの途中から地元「はねと」をリードする強者も現れ、地元のリーダーと交互に「はねと」達を従え「はねと」の輪を大きく広げ、大いに祭りを盛り上げた。祭りは21時に終了の花火が上がり、全員、興奮の余韻が残しつつホテルへ引き上げた。ホテルで参加者はそれぞれに祭りのはなしで盛り上がっていたが、参加者の衣装は汗でグッジョリ濡れており風邪を引かぬように私服に速く着替えるよう促した。

当日、「ねぶた祭り」の最終日ということもあり、復路の混雑が予想されたので、主催者側担当者との話もそこそこに、参加者全員が支援者の方々にお礼を述べバスに乗り込んだ。予想通り交通渋滞し三沢には大幅に遅れ23時45分に到着した。車中、参加者全員は来年もまた参加したいと言っていた。「ねぶた祭り」参加ツアーは好評のうち、無事に終了した。なお、今年はJAAGAから参加者全員にピザ、ビール、ジュース等を提供した。（山本事務局長記）



Nebuta Festival

ねぶた祭参加支援の礼状

「ねぶた」祭り参加者代表から礼状

今年で2回目となる米軍三沢基地勤務の米軍人及び家族の青森「ねぶた祭り」参加支援に対し、参加者代表から当協会三沢支部に礼状が送られてきた。細部は下記の通り。

親愛なる山本様

8月6日、貴方と共に「ねぶた」祭りへ参加した米空軍三沢基地の参加者を代表し、本計画を実行する過程で貴方が示された素晴らしい思いやりに対して御礼を申し上げます。

貴方と日米エア・フォース友好協会のお陰で私達は日本の隣人達とともに日本文化のエキサイティングな部分を体験することが出来ました。祭りでの鳴り物、踊り及び祭り山車は大変素晴らしく、北日本での経験の一つとして私達の記憶に留まることでしょう。祭り会場へ行く途中、ピザの差し入れを頂いたことに対しても併せて御礼申し上げます。素晴らしい思い出、ドウモアリガトウゴザイマス。

米空軍曹長 ロナルドE.ボウラン
第35戦闘航空団最上級曹長

米空軍三沢基地が優秀部隊表彰を受賞

— 在米日本大使館佐藤 2 佐から連絡 —

在米日本大使館の佐藤 2 佐から米空軍三沢基地が優秀部隊表彰を受賞したと連絡がありました。連絡は下記のとおりです。

8月17日にペンタゴンで優秀部隊表彰「The Commander in Chief's Annual Award for Installation Excellence」があり、三沢基地の第35戦闘航空団が初の受賞の荣誉に輝きました。三沢からは団司令のウィリアム J. ルー准将を筆頭に三沢市長代理、第3航空団からは総務課渉

外班で米軍との通訳をしている及川士長が三沢の代表として参加されました。ペンタゴン内の講堂で行われ、各軍種の優秀部隊と隣接の市長や議員が陪席



した。在日米空軍の基地が受賞するのはこの部隊表彰が始まった1985年の嘉手納基地が受賞して以来の快挙です。

在日米軍広報部長ウォーゼンスキー大佐退役

8月2日、横田基地将校クラブにおいて在日米軍司令官ライト中将夫妻をはじめ副司令官、在日米軍及び自衛隊広報関係者、民間諸団体からの関係者約100名の参列のもと、在日米軍広報部長ビクターL ウォーゼンスキー大佐の退役式が挙行された。

ウォーゼンスキー部長は1980年任官し、その後約25年間にわたり勤務に精励されたが、その間米国内はもとより世界各地の部隊・司令部において広報任務一筋に活躍され、広報担当国防次官補軍事補佐官の大任を追えた後、2002年8月に在日米軍広報部長として横田着任、3年間にわたり日米の相互理解の向上に大きな役割を果たされた。J A A G Aの主要事業である「日米安保に関する広報活動」において、帝京大学学生が横田基地研修を実施した際に多大な支援、便宜を供与していただくとともに、帝京大学においての講演を自ら実施するといったように、J A A G Aの活動を積極的かつ強力に支援、その活動に多大な貢献をされた。

退役式は米軍音楽隊の演奏の下、日米国旗の入場、国家演奏に続き、ライト司令官がウォーゼンスキー大佐の軍に対する貢献を紹介するとともに同大佐への感謝の意をユーモアを交えてスピーチし、その後、同司令官からのディフェンス・スペリア・サービス勲章の授与（受賞理由：ウォーゼンスキー大佐の広報部長としての日米安保の強化及び自衛隊の統合強化に対する貢献、更にはインドネシア津波災害時における活躍等による）、退役証書の授与に引き続き、終わりにウォーゼンスキー大佐からの退役に当たってのあいさつ、参加者による米空軍歌の合唱を持って終了した。

退役式の後、参加者全員が参加しての送別パーティーが実施されたが、参加者は和気あいあいの中、部長との別れを惜しんだ。

本セレモニーには部長の御家族が世界各地から駆けつけ、部長の晴れ姿を見守る等、厳粛な中にも和やかな雰囲気でのセレモニーであった。

(蜂谷常務理事記)



Retirement ceremony of Col. Warzinski

リバティ号だより No.1

今年5月22日から、ヨットによる世界周航を始め、その第一レグの目的地ハワイに6月29日に到着し、まさに「竜宮城」ハワイに丸々ヶ月間滞在し、第二レグは1400哩の太平洋横断を横断して8月21日にシアトルに到着、9月21日にはサンフランシスコに入港、現在は太陽溢れる南カルフォルニアのロング・ビーチのヨット・ハーバに停泊中です。

出発から今日までJ A A G A会員の少なからぬ方々から、一角ならぬお世話になりましたので、ここで「リバティ号へのJ A A G Aの加担」につき、謝意をこめて紹介させていただきます。会員各位からのお世話の第一は、本周航準備のため平成15年3月にJ A A G A常務理事の役を早期に、また快く外して頂いたことです。お陰でM生命勤務の傍ら存分に準備に集中することが出来ました。第二のお世話は、大串、遠竹、岩崎各常務理事等に出発の前日、池袋で大々的な壮行会を催して頂き、村木J A A G A会長をは

じめ多数の参加者にご挨拶の機会を得ました。本壮行会では村木会長が「ヨットで出掛けるからと云うことで常務理事の役目を外したのに一向に出発の気配がなく、やっと今になって」との暗に「早く外し過ぎた」かのご印象を披瀝されましたが、実はこの十分な時間を頂いたことが「第一」に述べましたJ A A G Aからのご協力でありました。出発当日J A A G A会員の一行は、わが防大10期生等と呼応してわざわざ福島県勿来に来て頂き、ランチに分乗しての帽振れの見送りにクルー一同思わず涙ぐみました。グループの一部は、ハワイまで歓迎に出掛け、熱心な応援団としてハワイでも評判になった程でした。第三のお世話は、何と言ってもJ A A G A名誉会員でありますヘスター大将のご好意です。大将には準備段階から本計画について色々相談しましたが、「どうせ来るなら、米国の誕生日の7月4日にタイミングを合わすべし。また、米海軍にマリナー利用



Liberty crews with Gen.Hester in Pearl Harbor

の便宜の話をするので、早めに打診のこと」と極めて心強い提案・支援を頂きました。これにより記念すべきパールハーバーの入港を実現の運びとなりました。現地の入関関係者やヨット仲間等から、「どうやってパールハーバーに入れたのか？」と質問を受けたものです。同大將が企画してくれた歓迎行事の盛大ぶりについては、「応援団」から既に話が伝わっていることと思いますので省略させていただきます。ハワイ到着前にミッドウェー島への計画外の入港とそこでのヨット整備に関してヘスター大將から衛星電話を通じて口添えを頂きました。また、PACAF連絡官三輪1佐は俊敏な実行力と愛さるべきパーソナリティで同司令部の人気者でヘスター司令官の信頼も厚く、クルーも大変お世話になりました。

現在はロング・ビーチのアラミトス・マリナーで「季節待ち」をしています。北米大陸南部はハリケーン・シーズンで11月に入るまではこれ以上の南下はリスクなのです。今年はハリケーンの当り年で、既に「カトリーナ」で大きな被害が出ており、またメキシコ湾で「ウイルマ」が勢力を増し北米を目指しています。

この待機期間はクルーにとって絶好のヨット整備と寄港地周辺の観光の機会で、取り敢えずの整備所要を手立て済みのリバティとしては目下、観光に明け暮れています。その一環で私は、家内共々ラスベガス在住のマギー・サールスさんを訪問し、お宅に2泊させて頂いてきました。ここからラスベガス迄は約250哩、車で5時間程度の距離です。先ずもって、マギーさんはとてもお元気で、横田勤務時の脚の骨折は完全に回復された様子で一段とご闊達で、エナジェティックな歓待を受けました。女史は退官以来、アメリカン・ホームズ社(JAAGAの法人賛助会員)のアメリカ支店(事務局?)を開設され、同社の事務の他、高田絃一郎社長からは日米なかんずく空自・米空軍の友

好促進の特命もお授かりとのことで、「何か出来ることはないか?」と、益々意気盛んなご様子でした。また彼女は、横田で特別補佐官としてお任せされたドネリー大將以降ヘスター大將までの8代の司令官、同令夫人とのコミュニケーションも盛んな様子です。特に、同社にはJAAGAの名誉会員であるデービス、ホール両将軍も顧問として身を置かれているとのことで頻繁にお会いになられている様子でした。JAAGAに「名誉会員事務局」でも設置されれば最適の「役所」をお願い出来るかも知れない、などと思った次第です。我々が訪問した時、ラスベガスは異例の長期雷雨に見舞われ、同地域でも洪水の被害が出るほどの荒れ模様で、「林さん、お土産が過ぎます!」とのお叱りを頂く始末でした。(そう云えばシアトル地区でギグ・ハーバにスナイダー元35航空団副司令夫妻をお訪ねした時には、ギグ・ハーバでマリナーの大火も、ありましたっけ。)私共は、今回の押しかけ訪問で、憧れのマギーさんにお近付きになれば、雷雨のラスベガスでしたが、大いなる満足でI-15号を帰路につきました。さて我々季節移住者は間もなく米合衆国を離れメキシコに向かう予定です。自衛隊で身に着けた英語の効用も最早これまで、素養のないスパニッシュに挑戦です。どうなることやら???・・・お楽しみ下さい。

アスタラビスタ、セニョーラス イ セニョーレス!
リバティ船上から林 昭彦



Visit Maggie-san

… 新入会員の紹介 …

1 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
岡 村 雄 司 有人宇宙システム(株)	358-0024 300-0033	入間市久保稲荷1-10-1-14-402 土浦市川口1-1-26	04-2962-0385 029-826-8753
鬼 塚 恒 久 三 井 生 命	179-0074 100-8123	練馬区春日台3-34-8-104 千代田区大手町1-2-3	03-3577-5832 03-3213-0270
西 村 仁 アサヒ飲料(株)	277-0084 130-8602	柏市新柏1-13-1-205 墨田区吾妻橋1-23-1	04-7163-5628 03-5608-7468
奈 良 信 行 川崎重工業(株)	132-0025 105-6116	江戸川区松江2-26-5 港区浜松町2-4-1	03-3652-1340 03-3435-2498
源 外 志 明 石川島播磨重工業(株)	196-0053 188-8555	町田市能ヶ谷町1696-14 西東京市向台町3-5-1	042-735-7387 0424-60-1497
稲 葉 憲 一 富 士 重 工 業 (株)	180-0002 160-8316	武蔵野市吉祥寺東町2-13-16 新宿区西新宿1-7-2 スバルビル	0422-23-5708 03-3347-2504
正 岡 富 士 夫 三 菱 重 工 業 (株)	323-0806 108-8215	小山市中久喜4-6-10 港区港南2-16-5	0285-22-7143 03-7616-4319

2 個人賛助会員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
国 松 均 牧野フライス精機(株)	243-0817 243-0303	厚木市王子1-10-11 愛甲郡愛川町中津4029	046-222-7566 046-285-5552

3 法人賛助会員

法 人 名 代 表 者	〒	住 所 ・ 電 話 番 号	
(株)IHIエアロスペース 篠 原 昭 雄	100-8182	千代田区大手町2-2-1 伸大手町ビル10F	03-3244-5915

会 員 募 集

J A A G A は、今年で創立 9 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に 努めております。

会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。
なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊の O B

個人賛助会員 : 航空自衛隊の O B 以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】 〒105-0004 東京都港区新橋 5 - 2 5 - 1 - 3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

【電話】

03-3489-1120 尾 崎 利 夫 (東京航空計器(株))

03-6716-4303 村 岡 亮 道 (三 菱 重 工(株))

03-5400-4722 宇都宮 靖 (横 浜 ゴ ム(株))

03-3286-0339 新 井 洋 一 (新 東 亜 交 易(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

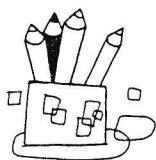
A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思ひます
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)
Fax 03-3437-8755